

山岸健治家文書目録解題

安塚区中船倉(住居表示は「上船倉」)の山岸健治家伝来の1,053点の文書群である。平成16(2004)年刊行の『安塚町史』編さん時にも調査が行われ、目録も作成されている。

上船倉は安塚区樽田から大島区菖蒲間の松之山街道沿い、船倉川の谷筋に位置する山村である。隣村の下船倉は、天和年間以前は上船倉村の枝村であり、上船倉と合わせて「舟の蔵村」等の名称により一村の扱いで把握されていたが、「天和郷帳」以降は上船倉村・下船倉村の2か村として把握されるようになった。「天和郷帳」によれば上船倉村・下船倉村とも80石余りの石盛りであり、山間地に特徴的な山林・青麻(原文のまま、あおそ・青芋)・漆等の高請けもされていた。

明治以降、家屋敷がやや離れていたため、便宜的に上船倉が、上船倉と中船倉に分けられ、集落自治もそれぞれ独立して行われるようになった。本文書群の中に、船倉村・上船倉村・中船倉村・下船倉村の名称が、時代をまたいで混交して使われているのは、そのような経緯と同地域の慣習等によるものである。

山岸健治家は1700年代中頃から末にかけて上船倉村の庄屋役を務めている。その後上船倉村は年番庄屋の体制をとるようになったが、同家も年番庄屋を務める家の一つになっている。1830年頃には再度一人庄屋体制となったが、その後も庄屋役を務め、明治以降には中船倉村の戸長を務めていた。そのため、近世・近代の村政にかかわる文書も多数含まれている。

文書の中では一紙文書が最も多く、年代不明も含めて700点以上残されている。そのうち、近世の文書は約500点、用箋や藁半紙も含めた近代以降の文書は約200点である。この他に、山林の地積図等が12点、読本・往来物等の和綴じ縦帳が約70点、近代以降の土地台帳・頼母子講関連の帳簿・大福帳等の横帳・半横帳が約220点残されている。

近世文書では、嘆願文書、訴訟文書、往来手形、人別送状(にんべつおくりじょう)等、村政全体にかかわる文書の他に、質地証文、金銭の貸付証文等の私文書も多くみられる。山間地域に特徴的な大規模な山抜けやがけ崩れ、雪解け水による満水被害等に関する文書(資料番号1380-348-1~350-1等)、天水田による白割(しろわれ)、青立(あおだち)等の被害に悩まされ続けてきたことを示す文書も残されている(資料番号1380-307-1~309-1等)。また、「当村代々記帳」(資料番号1380-287-1)は、村内分家の記録を網羅して記しており、山村での近世的な小農自立の状況をよく示している。これらの資料は、近世山間地域における農業経営の実態を明らかにすることができる重要な資料であるということができよう。さらに原本ではなくコピーではあるが、質地騒動において頭取として活動した上船倉村馬兵衛の獄門申渡状も残されている(資料番号1380-363-1、原本は所在不明)。

近代の資料では、まとまりのある2つの資料群が特徴的である。一つめの資料群は、地租改正に関わって作成された上船倉村の土地台帳(多くの資料が「村耕地野帳」と記載される)23冊(資料番号1380-136-1~158-1)である。近代初頭の上船倉村の土地利用の詳細を把握することができる。もう一群は、明治20(1887)年から昭和28(1953)年までの小作米取立帳(多くの資料が「年貢米取立帳」と記載される)である(資料番号1380-242-1)。近代の山間

地域の小規模な地主経営の状況が追究できる。その他に、近代以降の文書として葬儀・法事の記録、家屋などの普請記録、金銭及び米穀の貸付記録、頼母子講に関する帳簿等が多数含まれている。

また、「直江津小林区管内図」（資料番号 1380-10-1）は、近代初頭の頸城全域の集落名、主な道路と河川などが記載された非常に貴重な地図である。